

第94回 中小企業景況調査報告書

4月～6月の実績と
7月～9月の見通し

■ 今期調査の景況キーワード

前年同期比売上D I値は▲49.0で、前期調査時より全業種で21.4ポイント減少した。
来期見通し売上D I値は▲38.5で、今期より10.5ポイントの増加を予測している。
東日本大震災による間接的な被害が、地域経済に深刻な影響を及ぼし、業種業界を問わず先行きを不安とする声が多く寄せられた。
景況のキーワードとしては、「震災による先行きの不安」「需要の停滞」「単価の低下」などが挙げられる。

■ 調査時点 平成23年6月30日

■ 対象業種

製造業 25社(20) 建設業 23社(21)
卸売業 18社(16) 小売業 29社(22)
サービス業 25社(25) 合計 120社(104)
※()内は回答企業数

■ 回答率 86.6%

概況

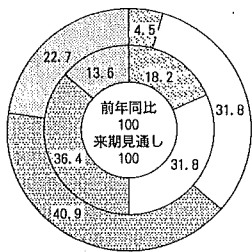
◆ 売上状況(前年同期比)では、売上D I値▲49.0を示し前期調査時より21.4ポイント減少した。
業種別ではサービス業で17.9ポイント、製造業1.7ポイント増加したが、卸売業54.5ポイント、小売業30.0ポイント、建設業11.5ポイント減少した。
来期見通しD I値は、▲38.5で前期調査時より10.5ポイントの増加を予測している。

◆ 採算水準(前年同期比)では、D I値は▲49.9で、前期調査時より11.9ポイント悪化した。
業種別では、製造業で26.7ポイント、サービス業22.7ポイントと好転したが、卸売業41.1ポイント、建設業15.0ポイント、小売業で3.6ポイント悪化した。
来期見通しD I値は▲45.9で前期調査時より4.0ポイントの好転を予測している。

◆ 仕入単価(前年同期比)では、D I値は▲36.5で、前期調査時より0.9ポイント悪化した。
業種別では製造業で11.7ポイント、建設業2.8ポイント好転したが、サービス業38.7ポイント、卸売業で22.0ポイント、小売業で17.5ポイント悪化した。
来期見通しD I値は▲32.3で前期調査時より4.2ポイントの好転を予測している。

◆ 資金繰り(前年同期比)では、D I値は▲35.4で、前期調査時より2.5ポイント好転した。
業種別では、サービス業で19.7ポイント、小売業で14.3ポイントと好転したが、製造業で3.3ポイント、卸売業2.4ポイント、建設業2.3ポイントと悪化した。
来期見通しD I値は、▲33.4で前期調査時より2.0ポイントの好転を予測している。

◆ 雇用人員(前年同期比)では、D I値7.3で前期調査時より1.9ポイント過剰を示した。



(単位: %)

▼ 建設業

※業種別売上 (外円は前年同期比、内円は来期見通し)

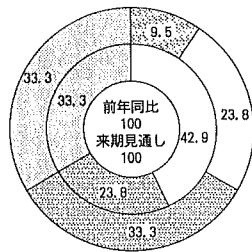
■ かなり増加
■ やや増加
■ 変わらない
■ やや減少
■ かなり減少
■ 回答なし

業種別では、製造業21.6ポイント、卸売業で20.2ポイント、建設業14.4ポイント、小売業で9.3ポイントの過剰を示し、卸売業で8.0ポイントの不足を示した。
来期見通しD I値は8.3で、前期調査時より1.0ポイントの過剰を予測している。

◆ 業界の状況(前年同期比)では、D I値▲70.2で、前期調査時より5.8ポイント悪化した。業種別では製造業で13.0ポイント好転したが、小売業4.7ポイント、建設業7.6ポイント、卸売業15.0ポイント、サービス業35.3ポイント悪化した。
来期業況のD I値は▲70.2で、前期調査時と同数値を示している。

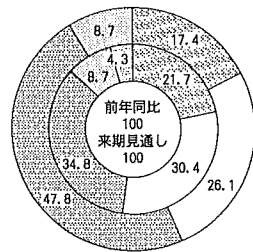
◆ 設備投資では、今期実施した企業は9.4%で、来期の設備投資を計画している企業は5.2%であった。

◆ 経営上の問題点としては、製造業では、「需要の停滞」「原材料単価の上昇」「製品(加工)単価の低下」、建設業では、「民間需要の停滞」「官公需要の停滞」「請負単価の低下・上昇難」、卸売業では、「需要の停滞」「販売単価の低下」「代金回収の悪化」、小売業では、「消費者ニーズの変化」「購買力の流出」「販売単価の低下」、サービス業では、「需要の停滞」「利用者ニーズの変化」「利用料金の低下・上昇難」となっている。



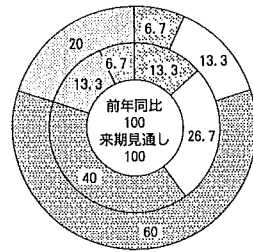
(単位: %)

▼ サービス業



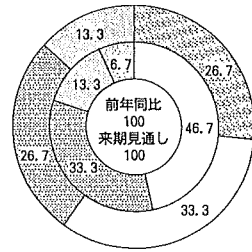
(単位: %)

▼ 小売業



(単位: %)

▼ 卸売業



(単位: %)

▼ 製造業